

● 設立披露パーティー

鶴田卓彦日本経済新聞社・元社長の祝辞

皆様、今晚は。ただ今、ご紹介頂きました鶴田でございます。

甚だ僭越ではございますが、ご指名でございますので乾杯の音頭を取らせて頂きます。日本 MOT 振興協会の設立、誠にめでとうございます。折角の機会でございますので、一言だけお喜びの言葉を申し上げたいと思います。

先ほど、有馬先生もおっしゃいましたが、有馬会長をはじめ、関係者の皆様には、数年前から準備を進めて参りまして、本日めでたく、これが実りまして、創立の総会ということになりました。私はこれは絶妙なタイミングで、スタートができたのではないかと考えています。と申しますのは、何といっても今、皆様ご承知のように、世界経済は、大変な同時不況が進行しております。

どこの国の指導者も先行きに確たる見通しはないけれども、財政あるいは金融の面から、いろんな手立てを講じて、何とか早く、この先の見えない経済の暗い状況から脱出しようと、頑張っております。私は独断的に見ているのですが、この深刻な不況を、大体全治 5 年と見ております。ただし、今、有馬先生がおっしゃいましたが、科学技術の進歩、発展によって多くの人々に応えられるような新しい製品あるいは新しいサービスが登場いたしますと、5 年よりももっと早く、不況から脱出できるのではないかと考えております。

ですから、科学技術の関係者の責任もこれまた重大ではないかと考えております。そこで、有馬先生が、日本はもっと、日本人はもっと自信を持ちなさいと言われましたが、私は全く同感でございます。この世界中が暗い世の中にまず、日本が科学技術の面から世界に発信をする、ということがぜひとも必要ではないかと思っております。

そういった意味で、今日は政治家の先生方もいらっしゃいますけれども、政界、財界、官界、学界、政・財・官・学、この 4 者ですね。これがまさに一体となって、日本の科学技術の振興を推進して頂きたいと思っております。

それによって、日本は、世界の中では、やや沈みかけておりますけれども、

それが又、大きく浮上するきっかけになるのではないか。そういうふう
に思っております。それではここで乾杯に移りたいと思います。

よろしいでしょうか。皆様、会場の前の方に出て頂いて、ひとつ元気に
やりましょうや。

本日、設立されました日本 MOT 振興協会のたくましい発展を期待し、
また、本日ご列席のすべての皆様方のご健勝とご多幸を心から願って、杯を
上げたいと思います。ご唱和をお願いします。「乾杯」——。ありがとうございました。